

派遣国基礎情報（東ティモール）

- (1) 正式名称—(和文) 東ティモール民主共和国
(英文) The Democratic Republic of Timor-Leste
- (2) 政体—共和制
- (3) 首都—ディリ
- (4) 面積—約1万4,900平方キロメートル
- (5) 人口—約121万人（2012年 世界銀行）
- (6) 民族—テトゥン族等大半がメラネシア系。その他マレー系、中華系等、ポルトガル系を主体とする欧州人及びその混血等。
- (7) 言語—公用語は、テトゥン語及びポルトガル語。実用語に、インドネシア語及び英語。その他多数の部族語が使用されている。
- (8) 宗教—キリスト教99.1%（大半がカトリック）、イスラム教0.79%
- (9) 略史—16世紀から相次いで進出したポルトガルやオランダの植民地となる。1942年には日本軍がティモール全島を占領するも、日本の敗戦によりオーストラリア軍の進駐を経てポルトガル支配が復活。1974年にポルトガル本国で発生したクーデターを機に独立の機運が高まるが、1976年に進攻を受けたインドネシアに併合される。1980～90年代スハルト政権の占領下では、サンタクルス事件（インドネシア軍による独立派虐殺事件）をはじめとする激しい弾圧により、多くの国民が命を落とした。1998年スハルト大統領が退陣したため、2002年には東ティモール民主共和国として独立し、シャナナ・グスマンが初代大統領に就任。しかしその後も国内情勢は混迷し、国連安保理は国連東ティモール統合ミッション（UNMIT）を設立。2010年に国造りの基本となる中長期開発計画「戦略開発計画」（SDP）が策定され、2012年にはタウル・マタン・ルアク大統領率いる第5次立憲政府が発足。
- (10) 政治—国家元首の大統領は、主として象徴的な役割を果たすにすぎないが、立法に対する拒否権をもつ。国民の選挙によって選ばれ、任期は5年。行政府の長である首相は、議会での選出後、大統領が任命する。
- (11) 気候—熱帯モンスーン気候に属す。季節は乾季と雨季の2つで、首都ディリでは11～4月が雨季、6～9月が乾季である。乾季は平均気温18度と穏やか。しかし、11月～4月頃の雨季は平均気温が21度であり、年間降水量の85%がこの時期に集中する。この集中的な多雨により、土壌侵食が心配される。
- (12) 通貨—米ドル、ただし、1米ドル以下については独自の「センタボ（centavo）」貨を使用（米セントと同貨）。東ティモール・ディナール（JD）

